

# 改めて日本人の“国際化”を問う

長谷川 三千子氏



千本 倅生氏



中嶋 嶺雄氏



日本人自身がどれだけ知っているのかという点。日本語学会ができてまだ十数年。日本語すら十分に勉強してないのである。貢献論の前に勉強をする必要がある。

長谷川 いまの地球全体が、放っておいても大丈夫なのであれば、我々は何もする必要はない。けれどももし我々の常識で考えて、本当にまずい状況が見えてきたならば、自分なりにできることをしなければならぬ。たとえば南北問題は地球全体にとって緊急の問題である。食べていけないという問題に取り組みを勉強しよう、では間に合わない。

光田 貢献すべきだという考え方には基本的に賛成である。私自身、文部省の留学生課長として一人でも多くの留学生をさすべく努力してきた。ただ何かをしようとするときは、人の心を知る必要がある。果たして我々の常識が世界の常識であるのか、あるいはア

千本 私は湾岸戦争後の世界、そして二十一世紀も日米関係を軸にやっつけなければならぬと考える。それが崩れると、周辺諸国に被害が生じる。ところが日米関係の中に問題が内在している。つまり我々の産業の大部分が情報、通信などに依拠しているにもかかわらず、工業化、情報化における十分な競争力を持っていないのである。湾岸戦争で大活躍したパトリオットの半導体もほとんどすべて日本製だった。この状況で日米関係をどうやっていくのか。これは最大の課題である。

吉田 プッシュ政権はいま、九〇%に及ぶ支持率に自信を深め、アメリカ主導の新世界秩序の構築に精を出している。しかし私はその新世界秩序づくりには懐疑的である。私は今後の二十一世紀への十年間はア

は大国失格なのではないか。

バルバース なぜ人が出ないかという点、日本の意思決定過程が古いからだと思つ。サダム・フセイン大統領がペルシャ湾に石油を流したとき、誰もがこれは犯罪だと思つた。翌日ノルウェーから、その翌日にはドイツから人が駆け付けた。そのとき日本で何が起

こつたか—政治家の、根回しである。ペルシャ湾がきれいになってからでは意味がない。日本人が誤解されても当然である。

長谷川 バルバースさんの言葉の「貢献」は日本が発展途上国を経済的に援助することとは、根本的に異なる問題を含んでいる。つまり日本が軍事的に人を出して「貢献」するということは、日本が再び軍事の主体となるのか、という非常に重大な選択とワンセットになっている。これはコンセンサスの形成の方法にかかわらず大変重大な問題で、これを真正面からつきつけられたら、日本の人的

リカ主導の新世界秩序に対して、差別、不平等などで虐げられた被害者の側の異議申し立てが起きるだろうと見ている。

中嶋 アメリカは自由・平等・平和・人権の側に立つべきである。その中で日本はどうするか。対米協調、追従であるなら、第三世界の異議申し立てをおさげにかかるしかない。しかし日本は自由・平等・平和・人権の側に立つべきである。

## 21世紀も日米を基軸に 国連の“再構築”が必要

中嶋

は明らかである。第三世界の抑圧された人々の尊厳し向きを少しでも良くするため、経済の力を発展途上国に貢献する必要がある。

時代から、たとえば全体としてのシステムを売るときへ移ってきている。つまり、より包括的に国の活性化にかかわっていかないと、相手国は受け入れてくれない。

## 学ぶのでなく見いだせ アジアと新しい関係を

長谷川

中嶋 それは非常に重要な問題である。アメリカにとって、日本とアジアの間の亀裂が安心になつていない。日本がアジア主導を進んでいくとすれば、アメリカのいらだちはもっと大きくなるだろう。

土野 アジアとの関係で、もう一度中嶋さんに「機は熟していない」という言葉の真意を具体的に聴きたい。

中嶋 日本が貢献しようとする環境ができていない、という意味である。このまま時間がたてば、日本はもっと選択肢を狭めることになるのではないかと危惧している。日本は第二次世界大戦で、かなり無謀なことをした。その前は受けなければならぬし、またそれに対する時間として四

れるのか、ということまで含めての言葉なのか。

中嶋 長谷川さんとは根本的に「機は熟していない」という言葉の受け止め方に違いがあるようだ。湾岸戦争で世界はまだ力があることを知った。アメリカがあのような形で力行使するのは、革命と戦争の世紀と言われる二十世紀でもこれが最後ではないかと思つ。これから二十一世紀はそれと違つた格好で、

竹中 最近話題になっている企業の社会的貢献で、日本の各企業も立派なことをいろいろやっているが、それを口にしたくないためにほとんど自立せず、日本企業は金儲けしきしきと誤解されている。IBMには「よき企業市民たれ」というモットーがあり、それを具現化していくシステムが整理されて、どの国にも企業貢献のあり方がわかってもらえる。貢献にあたってはもっとパブリシティを重視すべきだろう。

バルバース 今後は日本人にも文化、ソフト、自然科学を通じて、明るく懐疑的にかつ誇りをもって日本を世界に広めてほしい。ささやかながら、私も協力したい。

吉田 康彦氏



土野 繁樹氏



ロジャー・バルバース氏



つ援助に振り向けて、民生安定のために役立つ援助、協力をすべきだろう。

中嶋 アメリカは自由・平等・平和・人権の側に立つべきである。その中で日本はどうするか。対米協調、追従であるなら、第三世界の異議申し立てをおさげにかかるしかない。しかし日本は自由・平等・平和・人権の側に立つべきである。

再構築が必要だろう。国連とは戦勝大国の都合で世界も議論が十分ではないと思

や文化を守らねばならない。ならば次善の策を講じる必要がある。他のものより信用できるもの一つずつ選んで連帯を組むのが現実的な知恵だろう。それが国連にたどりついている。確かに国連では日本はまだ敵国条項の対象になっており、国連自体十分に機能していないのは事実だが、平和に貢献できる材料として

- 主催 産経新聞社
- 共催 神戸市
- 後援 外務省 文部省 通商産業省 国際交流基金 神戸商工会議所
- 協賛 日本アイ・ピー・エム株式会社 西日本旅客鉄道株式会社 I T J 日本国際通信
- 協力 株式会社 株式会社 長谷工コ ポレー
- 製鋼所 株式会社 株式会社
- タニカ 株式会社
- マカタ 学校法人 風学園